

ケサランーパサラン

“ケサランーパサランって、何か知っているかい。植物にも動物にもつかないのに、おしろいを食べてふえるのだって……” 去年の今ごろ、全国的に話題となったケサランーパサランのニュースをおぼえていますか。この不思議なものは、一体何なのでしょう。

よく調べてみると、これは生き物ではなくて、動物や植物の体の一部のようなのです。今まで知られているものには、ウサギの尾の端や白ギツネなどの毛玉である動物性のものと、アザミ類の種子の冠毛である植物性のものとがあります。

サワアザミのケサランーパサランは、中央に直径1mmの輪があって、そこから20本ほどの冠毛が放射状にひろがり、直径2cmほどの球形をしています。冠毛には、鳥の羽のような細かい枝があるので、少しの風でもふわふわと動き、まるで生き物のようにみえます。

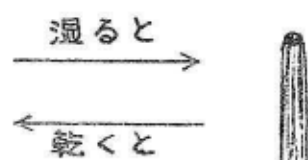
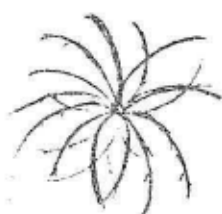


ケサランーパサランのうた
中沢 信子作

どこから どこから ひんできた
ケサラン パサラン ひんできた
雲より白い 雨よりかるい
ケサラン パサラン
ケサラン パサラン

ケサランーパサランは、生き物でないのになぜおしろいを食べるといわれているのでしょうか。ケサランーパサランが、家庭に幸福を招くマスコットだといわれていることと関係があるようです。幸福を招く大切なものですから、腐らせてはなりません。それで、おしろいを使って乾燥させたのでしょうか。こころみに、ケサランーパサランを湿ったところにおいてみると、冠毛が徐々にしぼんで雨がさを折りたたんだようになります。次に、それをおしろいを入れた箱に移すと、今度は、冠毛が開きはじめ、やがてもとのまりのようになります。おしろいは、乾燥剤のはたらきをしているのです。古い時代から、おしろいを使って保存していくうちに、いつの間にかおしろいは、ケサランーパサランの食べ物だといわれるようになったのでしょうか。

また、子どもを産んでふえるというのも、いつの間にか話に尾ひれがついたためだと思います。



(サワアザミのケサランーパサラン実物大)

今年もアザミ類のケサランーパサランが、風でとんでくる季節になりました。いろいろな種類を集めて、観察するのも楽しいことです。(S. N)

富山市科学文化センター

建設準備事務局 窓 32-7272

(内線 58・59)

〒930 富山市丸ノ内ノ一4-50 市立図書館内

昭和53年9月10日発行